

※文字の大きさは Meiryo UI /12 ポイント以上とし、行間・文字間、上下左右の余白は変更しないでください。  
 ※具体的に示したい図、写真、表、グラフなどは、(写真1) (表1) などと文中に記載し、右ページに(写真1) (表1) などと表記の上、貼り付けてください。  
 ※文章と図等を組み合わせながら作成することも可能です。各項目の枠の上下幅は変更可能です。  
 ※いずれの場合も、必ず A3 片面 1 枚におさまるように作成してください。ファイルサイズは 5 MB 以下としてください。

<b>部門名：</b> 校内研修プログラム開発実践部門	<b>エントリー名：</b> 【学校名・氏名】 茨城県鹿嶋市立平井小学校 高楠 香代子 【修了研修名】 平成30年 第1回 副校長・教頭等教員研修
<b>活動名：</b> 学校が抱える「危機とは」～あたりまえのことをあたりまえに～	
<b>解決すべき課題</b> 本校は、鹿島灘に面した学区にあり、校庭は海拔 6 m に位置し海岸に隣接している。東日本大震災においては校庭近くまで押し寄せた津波と液状化で崩れた道路、斜めになった電柱など大きな被害があった。また、南海トラフ自身に係る地震防災対策の推進に関する特別措置法に該当しており、教職員は防災に関する意識は高い。しかし、これらの高い意識が防災以外の「学校の危機管理」という面で十分に生かされているとはいえない。ここ数年、教職員の異動が多く、若手教員も増えており、これまでの本校の防災教育への取組について再確認するとともに、危機管理について周知徹底を図る必要がある。また、事前のアンケートでは「危機管理は管理職がするもの」と考え、自分のこととして受け止められていない教職員がいることも明らかになった。そこで、本研修で学んだ「学校教育とリスクマネジメント～学校の危機をいかに防ぐか～」の講義内容を基に、リスクマネジメントとクライシスマネジメントの側面から学校が直面する危機について全職員で考え、「組織として危機感を共有し、問題の発生を未然に防ぐことのできる教職員集団」の育成につなげていきたい。	
<b>目標・方針</b> (1) 「危機管理」(リスクマネジメントとクライシスマネジメント)の基本的な考え方を理解する。 リスクマネジメントとクライシスマネジメントの視点を意識し、「危機管理マニュアル」の読み合わせをする。 (2) 判例をもとに、それらに潜む「リスク」について考える。 (3) イラストを用いた事例演習をし協議する。 (4) 設題を用いた事例演習をし協議する。	
<b>活動内容</b> (1) 「危機管理」(リスクマネジメントとクライシスマネジメント)の基本的な考え方を理解する。 ・有名な「ハイリッヒの法則」(ヒヤリハットの法則)の「1つの重大な事故が起こるには、それまでに小さなヒヤリとすることの積み重ねがあったはずであり、逆に、小さなヒヤリとすることに気づき、防いでいれば 29 の小さな事故を防ぐことができ、ひいては重大な事故を防ぐことができる。」の考えをもとに、学校が直面する様々な危機について理解する。【図 1】 ・「リスクマネジメントとクライシスマネジメント」の視点を意識し、本校の「危機管理マニュアル」の読み合わせと確認をする。【図 2】 (2) 事例をもとに、それらに潜む「リスク」について考える。 実際に起きた事例(新聞記事等)をもとに、「事例の問題点 学校としてどう対応すべきであったか、実際の判例はどうであったか」について考え、「危機を招かない学校にするためには、危機意識を共有できる組織づくりと高い危機意識を有する教職員を育成すること」の必要性を理解する。 (3) イラストを用いた事例演習 学校教育活動の 5 つの場面が描かれたイラストから、それらに潜む危険について個人で考え(ステップ 1)、グループで事故を防止するために必要な対策について話し合う(ステップ 2)。最後に全体でそれぞれのグループの発表を行い、危機管理の感覚と、リスクに対する備えの共有化を図る(ステップ 3)【図 3, 4, 5】 (4) 設題を用いた事例演習(生徒指導についての危機管理) 中堅教諭等中央研修で研修してきた教諭が「生徒指導について」の研修を実施し、生徒指導に関する事例検討を行い、個人として、組織としてどんな対応をすべきか考え話し合う。【図 6】	

**活動の成果：**

- 「危機管理マニュアル」について、基本的な考え方を理解した上で読み合わせを行ったため、その必要性を再認識し、様々な危機や場面に応じた対応の在り方や留意点について、「自分のこととして受け止め活用していこう」という意識が高まった。
  - 「危機管理」の基本的な考え方を伝えることで、「危機管理」は管理職だけが行うものではなく、「組織として危機感を共有し、問題の発生を未然に防ぐこと」「違和感を共有し、見えない危機を見えるようにしていくこと」の重要性について理解を深めることができた。
  - イラストを用いた事例演習や設題を用いた事例演習を通して、危機感を共有し合うことやチームで対応することの大切さを理解してもらうことができた。
- <研修後のアンケートより>
- ・「もし何かあったら」と考え、細かなことでも情報を共有し合い危機を回避していきたい。
  - ・事例演習を通して、学校生活にある危機について先生方と話し合い、意見交換することができて有意義であった。自分が気づかなかった視点で「潜んでいる危機」に目を向けている先生がいて参考になった。
  - ・改めて自分たちが安全安心に対する強い意識をもち続けていかなければならないことを痛感した。合わせて、児童に対しても安全に対して意識が高まるような指導をしていかなければならないと感じた。
  - ・安全点検、校舎内外の見回り、児童の健康観察など、何を目的として行っているのかを改めて考え直した。
  - ・さまざまな危機に直面した時に、「我が子だったら」という保護者の立場になって対応するということが印象に残った。

**アピールポイント(アイデアや工夫)：** ※3~5つ程度、箇条書きしてください

- 学校の危機に関して基本的な考え方を理解した上で、「危機管理マニュアル」の読み合わせと確認を行うことで、危機管理マニュアルが学校や地域の特性や実情に即した学校独自のものであるべきであるという認識が高まる。
- イラストを用いた事例演習や設題を用いた事例演習を取り入れ、リアリティのある、しかも効果的な意識改革を短時間で実現することができる。
- 中堅教諭等中央研修で研修してきた教諭と連携して研修を行った。お互いに研修してきたことを話し合っ実践したことで、より効果的な研修になった。



【図 1 基本的な考え方】



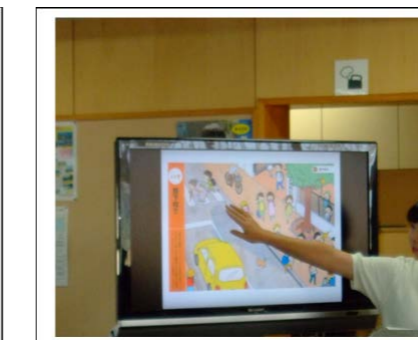
【図 2 危機管理マニュアル確認】



【図 3 イラスト事例演習①】



【図 4 イラスト事例演習②】



【図 5 イラスト事例演習③】



【図 6 設題を用いた事例演習】